

この子らと

令和1年12月

まことの保育



学級を超えてなかよし

鹿児島竜谷学園和光幼稚園



園長 川口公男

もちつき大会



かつては、年の暮れとなると日本中の家からもちつきをする風景がみられました。「ぺったんこ、ぺったんこ」もちをつく音が聞こえてくるともうすぐお正月だと心がうきうきとなったものでした。

子どもたちに日本の原風景であるもちつきを体験させたいと昔ながらのもちつきを実施しています。父母の会のお母様方、おやじの会のお父様方、仏教婦人会のみなさまににご支援をいただきながら楽しくおこなうことができました。「先生、お餅おいしくいただきました」とお言葉をいただきました。



あおあおとしたイチョウの葉が秋になり黄色くいろづきそして冬に葉を落としました。イチョウの葉の命の旅が終わりました。この時期になりますと童話「葉っぱのフレディ いのちの旅」(リオ・パスカーリア作)を思い出します。子の作品は、春に生まれた葉っぱのフレディが秋に紅葉し、冬には死にます。そして春になると青井葉っぱが誕生するといういのちの循環を書いています。親子での一読をおすすめいたします。

ふじ「親鸞さま」



さくら「おしゃかさま」



年長組最後のなかよし発表会でした。ふじ組・さくら組ともに精いっぱい感動の発表でした。

ご門主さまをお迎え

京都にある西本願寺の大谷光淳門主さまが西本願寺鹿児島別院を訪問されました。大谷光淳門主さまは浄土真宗本願寺派第24世のも門主であられ、京都西本願寺及び東京築地本願寺の住職でもあられます。**大谷光淳門主さまのお言葉です。**

- 1 自分の殻に閉じこもることなく、穏やかな顔と優しい言葉を大切にします。微笑みかける仏さまのように
- 2 むさぼり、いかり、おろかさに流されずしなやかな心と振る舞いを心がけます。心安らかな仏さまのように
- 3 自分だけを大事にすることなく、人と喜びをわかち合います。慈悲に満ちみちた仏さまのように
- 4 生かされていることに気づき、日々にせいっぱい努めます。人々の救いに尽くす仏さまのように



子どもたちの「おはようございます」と元気な声に立ち止まって話かけてくださいました。「何歳ですか」、「よんさい」と物おじすることなく答えていました。別院の先生方、幼稚園の先生方も直立不動で緊張していたのですが。

いよいよ令和元年が終わりを告げます。静寂の中でお寺からしみわたるように響く除夜の鐘をご門主さまのお言葉を胸に令和2年を迎えたいと思います。

【保護者のみなさま、今年一年、お世話になりました。どうか良い年をお元氣でお迎えください。】